

人文学科

《学科の理念・目的》

人文学科は、哲学、文学、史学の分野を横断的に学ぶことを通して、人間の文化に関わる基礎的知識を広く修め、考究の姿勢、応用能力を社会のあらゆる分野に生かし、文化の創造と社会の発展に貢献できる人物の育成を目的とする。 (東京女子大学学則 第4条第3項)

多くの情報に溢れた現代社会に求められるのは、情報の波に流されず必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判したりするための豊かな教養です。先人達が、さまざまな事象を、種々の角度から考究してきた〈解釈〉の集積体である人文学はそのような教養の基礎を作る知の営みです。人間は、知らず知らずのうちに自分の生きる場所に埋め込まれていて、物事から距離を取る、相対的なまなざしを失いがちですが、〈解釈〉を学ぶことで、世にあふれる情報を、自らの生と結びつけた知識や教養に変える力が身につきます。

人文学科では、哲学、日本文学、歴史文化の3専攻を置き、各分野の中心的領域を深く学ぶことを通して、個別の文化的事象への認識を深めます。またそれと同時に、各分野を横断的に学ぶことを通して、人間が長い歴史の中で積み上げてきた知的・文化的財産への理解を深め、ユニバーサルな視点を備えた現代的教養の基礎を築きます。深い学びと広い視野、双方の視点から、人間の創ってきた文化の意味を根源から追求します。

こうした学びによって得られる人間の知的・文化的営為への深い理解の上に立って、次の時代に向けた新たな文化・社会の創造に貢献できる人物を育成します。

《カリキュラムの特色》

人文学科では、哲学、文学、史学の各領域の専門性を得ると同時に、横断的な視点を獲得して、深い学びに支えられた広い視野を涵養できるよう、体系的・順次的な教育課程を編成しています。

まず、1年次の必修科目で学科共通の「人文学入門」「人文学基礎演習」では、3領域の関連を広く学ぶと同時に、それらを横断する問題のとらえかた、研究方法を学びます。

つぎに、「基盤講義」および「基盤演習」を履修し、広く基礎的な知識と技法を修得して、専門を学ぶ基礎を築きます。この基盤の上に、さらにその発展学習のための「特殊講義」および「発展演習」を履修します。これらは、テーマなどを関連させ、系統的学習が可能となっています。専門に分かれ少人数のクラス編成で行う「特殊演習」では、卒業論文の作成に必要な技法の向上とともに、発表や討論を重ね、相互に批判検討することで、専門分野に対する理解を深めます。また、3年次では必修科目で学科共通の「人文学総合講義」を履修し、自身の専攻領域が同じ人文学として接しあう近隣領域とどのようにつながり、どのように異なる学問であるのかを考え、自身の専攻領域の可能性と人文学の意義を確認します。

4年次ではこれまでの学習の総決算としての卒業論文を作成します。これは、学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって仮説を実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて仕上げるものです。

哲学専攻

《教育目標》

哲学専攻は、時代と地域を超えた人間の根本的な問いを学び、その問いを哲学的に深めることで現代社会の多様な問題の本質を洞察し、文化の創造と社会の発展に貢献できる人物の育成を目的とする。

《カリキュラムの特色》

哲学専攻では、西洋哲学、倫理学、美学・芸術学、キリスト教学、東洋思想により教育課程を構成しています。地域としても西洋ばかりでなく、東洋（中国、インド、日本）を含んだ形で学べるよう配慮するとともに、真という価値に関わる狭義の哲学だけではなく、善、美、聖の価値に対応した倫理学、美学、キリスト教学の領域を設定し、これらの学問を体系的に学べるようにしています。

①基本からじっくり学べる1学年40人の少人数の専攻です。

哲学は人間の基本的な問いを出発点としますが、ひとりよがりの思いつきや独断に終わらないためにも、また基本に立ち返って反省する習慣を身につけるためにも、すぐれた先人が残してくれた古典をじっくり学びます。少人数の特色を生かし、教員と学生が関心を共にして互いに議論し合い、切磋琢磨していきます。

②生命・環境・科学技術など現代の直面する多様な問題を根本から考える力を養います。

哲学は、時代を超えて人々の関心の的になる問題を考えますが、これと並んで現代という時代が直面しているさまざまな問題について考えることも大事な使命です。21世紀の哲学専攻として、環境や生命、科学やテクノロジー、老いと死、戦争と平和、現代芸術などの問題について深く考える場を提供します。

③西洋哲学を中心に、倫理学や美学など幅広い哲学の分野を学べるカリキュラムを設置しています。

哲学専攻では、プラトンをはじめとして西洋哲学の古典を古代から現代にいたるまでまんべんなく学びます。これに加え、絵画・彫刻・音楽などの芸術や美の問題を取り扱う美学・芸術学、また、個人の道徳や社会正義の問題を扱う倫理学など、幅広い視野がもてるように、多彩なカリキュラムが用意されています。

④キリスト教学を学ぶことができます。また日本、東洋思想にも力を入れています。

キリスト教の精神に立つ本学の哲学専攻では、「キリスト教学」に関する講義・演習を設けており、これを通してキリスト教、また、広く宗教について深く学ぶことができます。また、最近では日本、東洋思想も取り上げるように努め、西洋哲学だけに偏ることのないよう配慮しています。

《履修法の助言》

■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。1年次では、学科の必修科目「人文学入門」により、人文学の主要な学問分野である哲学、文学、史学の基本的な考え方と方法について、最新の知見とともに広く学び、人文知の成り立ちを理解します。授業は、哲学、日本文学、史学をそれぞれ専門とする3人の教員によるオムニバス方式で行われます。また、「人文学基礎演習」により、3つの学問分野に共通する基礎的な知識やスタディ・スキルを習得するとともに、学問に誠実に向かい合う心構えを、演習形式によって確実に身につけます。専攻科目では、哲学の基礎の理解を目指します。「哲学の基本問題」「哲学の歴史的展開」により、哲学の初歩的な知識を得るとともに、哲学書の読解の仕方を学び、これを通して哲学的な思考法と、その表現の仕方を習得します。

2年次では、1年次の学習を受けて、引き続き「哲学概論」と「哲学2年次演習Ⅰ・Ⅱ」を中心に専門的な学習に向かう基礎能力を固めることを目指します。「哲学概論」は、哲学とはどのような学問かということについて、基本的な姿勢を学ぶことを目標としています。人間と文化のかかわりを中心にして、人間が言語や知識を通じて周囲のものとのように関わりながら、世界を築いていくかを考えることを通じて、問題の立て方とそれに対する自分自身の考え方を養います。「哲学

2年次演習Ⅰ・Ⅱ」では、哲学書講読の初級ゼミとして、3年次以降のより専門的な演習に参加するための土台をつくります。

2、3年次にかけては、《基盤講義》の「倫理学概論」、「美学概論」、「キリスト教学概論」の概論科目、「古代ギリシア哲学史」、「中世ヨーロッパ哲学史」、「西洋近代哲学史」、「西洋現代哲学史」、「東洋思想史」、「キリスト教史」、「美学史」といった通史的科目を学ぶことによって、各自の関心に応じつつ、広く基礎的知識を学習するとともに、自ら進むべき研究のための基盤を獲得します。これらの基盤科目は、できるだけ2年次のうちに履修しておくほうがよいでしょう。基礎的な学力が、その後のすべてを決定的に左右するからです。

また、2年次から《特殊講義》を履修することができます。学生は、この特殊講義によって、各専門領域の研究に導かれるとともに、教員の研究テーマに直接触れることを通して、最新の研究状況についての知識をも獲得することになります。

3年次以降も引き続き《特殊講義》を履修して専門分野の知見を広げて下さい。それと並び、《発展演習》の履修により、専門分野に即して資料を緻密に読解することを学ぶとともに、発表と討論を通じて問題意識を深め、また問題をいかに立て、それをいかに考察するかの方法を実地に学びます。また、このことを通して、卒業論文で扱うべき、各自のテーマを見極めて行きます。《特殊講義》と《発展演習》は4年次にも引き続き履修して研究の深化を図ることができます。

4年次では、卒業論文の作成を前提として「人文学特殊演習（哲学）Ⅰ・Ⅱ」を履修し、各自の問題意識に応じた問題をいかに選び、思考をどのように進め、論をいかに展開するかについて、指導教員の指導に従いながら、随時、各自の研究結果を報告し、相互に批判検討しながら作業を進めて行きます。同時に、論文の書き方、資料の調査方法とその取り扱い方など、研究を進める上での基礎的な手続きに習熟することも目指します。自らのテーマに応じた専門的研究を深めるとともに、自らの立てたテーマに沿って、資料を収集、読解し、考察を重ね、最終的に4年間の学習の成果を「卒業論文」に結実させます。

■全学共通カリキュラムとの関連について

各自の関心を広げていく姿勢を大切にしながら、学問の手法やおもしろさを実感してください。
キリスト教学：キリスト教は広く西洋思想の基盤ですので、哲学専攻の専門科目の基礎として、西洋思想をより深く理解するために有益です。

第一外国語科目：文献講読・発表等の基礎能力として学習を勧めています。

第二外国語科目：西洋近現代哲学を理解するうえで有益ですので、ドイツ語またはフランス語の履修を勧めています。

ギリシア語・ラテン語科目：西洋の文化と哲学の用語の大部分はギリシア語・ラテン語に基づいており、これらの言語に通じていることは有益です。

《その他》

履修の方法の詳細や資格取得については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

人文学科および哲学専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目（◎必修科目 ○選択必修科目）
1 年 次	人文学の基本的な考え方と方法について学び、人文知の成り立ちを理解する。	◎人文学入門
	人文学の3分野に共通な基礎的な知識とスタディ・スキルを習得し、学問に誠実に向かい合う心構えを身につける。	◎人文学基礎演習
	哲学の初歩的な知識を得る。また、古典を題材に哲学書の読み方を身につける。	◎哲学の基本問題 ◎哲学の歴史的展開
2 年 次	哲学の基礎的な知識を広く学習するとともに、自ら進むべき研究のための基盤を獲得する。	◎哲学概論 【2・3年次共通】 ○倫理学概論 ○美学概論 ○キリスト教学概論 ○古代ギリシア哲学史 ○中世ヨーロッパ哲学史 ○西洋近代哲学史 ○西洋現代哲学史 ○東洋思想史 ○美学史 ○キリスト教史
	【2・3・4年次共通】 各専門領域の最新の問題に触れるとともに、自らの問題意識を高める。	○特殊講義の各科目
	基本的な文献の講読を通じて、専門的な学習に向かう基礎能力を身につける。	◎哲学2年次演習Ⅰ・Ⅱ
3 年 次	哲学が同じ人文学として接する日本文学・歴史学とどうつながり、どのように異なる学問であるかを、具体的なテキストの読み方を通じて考える。	◎人文学総合講義
	【3・4年次共通】 専門分野に即して、資料の扱いを学ぶとともに、発表と討論を通して問題意識を深め、また問題をいかに立て、それをいかに考察するかの方法を実地に学ぶ。また、卒業論文で扱うべき、各自のテーマについて見極める。	○西洋古代・中世哲学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ ○西洋近代哲学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ ○現代哲学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ ○倫理学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ ○美学演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ ○文理融合演習 A・B 東洋・日本思想史演習 AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ
4 年 次	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、学士課程での集大成としての卒業論文を作成する。	◎人文学特殊演習(哲学)Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文

日本文学専攻

《教育目標》

日本文学専攻は、様々な文化現象との関係を視野に入れながら、日本文化の中での言語・文学の豊かな価値を新たなまなざしで追求し、自ら問題を発見して論理的にものごとを考えることのできる人物の育成を目的とする。

《カリキュラムの特色》

- ①日本語に関わることなら、何でも研究対象です。

日本語やその歴史、古典や近現代日本文学の価値、漢語・中国文学（漢文学）と日本文化の関係、個々の地域やトポス（場所）におけることば・文学・文化など、日本語に関わる全ての問題がテーマになりえます。同時代を総合的に見る共時的研究、時代的な推移を追う通時的研究、日本と外国の比較、登場人物や創作者の心理の探求など、様々な問題意識に応える豊富なカリキュラムです。

- ②伝統的な語学・文学研究と新しい研究領域とを融合。

言葉の研究や文学研究には、長年の蓄積がある一方、異文化を背景とする文学作品との比較研究や、コンピュータによる言語情報処理、また歴史学・社会学・美術史など隣接学問の応用など、新しい研究方法も現れました。日本文学専攻ではこうした伝統と革新とを幅広く学び、日本文化に対する新たな展望を開く力を身につけます。

- ③古代から現代に及ぶ多彩なカリキュラム。自主性を尊重し、きめ細かな指導の演習。

日本語学部門では、現代日本語をコンピュータやフィールドワーク等を用いて分析し、また日本語史を資料にあたって調査します。日本文学部門では、古代から現代まで多数の演習があり、研究史の深い理解に基づいて議論します。「創作と批評」「日本文化」「比較文化」の講義、英語で日本の文学や文化を教える講義もあります。演習は少人数で、学生の関心に応じて、丁寧に指導します。

- ④1年次から最新の研究を学び、3年次からは専門に分かれて研究を深める。

1年次の入門で、日本語学・古典文学・近現代文学・漢文学の基礎を学びます。2年次では、概論や特殊講義で、全体像を把握します。3年次からは学生の選択により、各分野に分かれ、演習を主体に研究方法を学びます。4年次では各自の選んだテーマによって卒業論文を作成し、4年間の総仕上げをします。

《履修法の助言》

■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。

1年次では、前期に「人文学基礎演習」を履修して、人文学の主要な学問分野である哲学、文学、史学の3つの学問分野に共通する基礎的な知識やスタディ・スキルを習得するとともに、学問に誠実に向かい合う心構えを、演習形式によって確実に身につけます。後期には「人文学入門」を履修して、哲学、文学、史学の基本的な考え方と方法について、最新の知見とともに広く学び、人文知の成り立ちを理解します。専攻科目の「入門」では、日本語学、日本文学（古典・近現代）、漢文学の3領域を必修として学び、それぞれの研究の基礎知識と方法を身につけます。また、「概論」の各科目は、12単位が必修で、日本語学、日本文学、日本の文化及び漢文学について各分野の全体像を学びます。

2年次になると日本語・日本文学の《特殊講義》や《基盤演習》など選択範囲が広がります。こ

の学年では、日本のことばと文学・文化を広く学習し、自分で興味を持てる問題や研究対象を見つけ出す態度・努力が望まれます。《基盤演習》は、10 単位が必修ですから2・3年生のうちになるべく履修して下さい。日本文学専攻では、少人数で、学生それぞれのレポートを中心に出席者が討論しながら学び、研究を深めていく演習科目を重視し充実させています。コンピュータを使って日本語を分析する「言語情報処理 I・II」、実地調査の姿勢を学ぶ「言語調査 I・II」「古典籍調査」、自ら創作に関わることで、文学研究にとって不可欠な創作者の意識・心理に対する理解を深める「創作と批評（創作） I・II」、批評的な知を以て文化や社会に関わる姿勢を学び、知見を編集して発信する実際に体験する「創作と批評（批評） I・II」も2年次から履修できます。なお、3年次では、「日本文学演習 I・II」を必修として必ず履修します。この科目は卒業論文への第一歩となる科目です。2年次後期の学期始めには、自分が向かう分野が決定しますので、それに従って2年次後半以降の学習を深め、卒業論文の予定題目を絞り込んでいきます。

3年次では、前期に、哲学、日本文学、歴史学をそれぞれ専門とする3人の教員によるオムニバス方式で行われる「人文学総合講義」を履修して、日本文学が同じ人文学として接する哲学・史学とどうつながり、どのように異なる学問であるかを、共通のテーマをそれぞれの分野から考えることを通じて考えます。これにより、日本文学の可能性と人文学の意義を再確認します。また、自分の書こうとする卒論のテーマにふさわしい分野の「日本文学演習 I・II」を履修します。この他2年次と同様に、それぞれの《特殊講義》や《基盤演習》も積極的に履修しましょう。全体として3年次では、論文題目の決定に向けて、広く学びつつ専門を深めることを心がけ、計画的に履修しましょう。

4年次には、「人文学特殊演習（日本文学） I・II」が必修になります。ここで、指導教員から具体的な卒業論文についての指導を受け、討議を経て卒論制作を行います。ここでも、単に指導を受けるのを待つだけの姿勢ではなく、自ら考え、自ら構想を立てて、積極的に発言するよう、努力が必要です。この授業を通じて、必要な助言と指導が得られますが、あくまで学生自身が主体的に論文制作にあたらねばなりません。

卒業論文は学部での勉学の総決算と言うべきもので、感想文・評論文や普段のレポートの長いものでは決してありません。それにふさわしく、周到に準備を進め、最低でも正味一年は掛ける心構えが必要です。論理と実証とが論文の両輪であることを忘れず、学部での勉学の成果を結集してほしいと思います。その研究過程を通して、創り出す喜びも伴うはずで、その経験は、将来どんな分野に進んでも、必ず生きることでしょう。

■全学共通カリキュラムとの関連について

第一外国語科目：日本語への関心は、他の言語との対照関係によって生まれることが多く、日本語を対象化して見る目を養うために、他言語の習得は不可欠です。

第二外国語科目：特に漢文学（中国文学）と日本語・日本文学の関連に興味をもつ人に、中国語の履修を勧めています。

AI・データサイエンス科目：日本語・日本文学どちらの分野でも、コンピュータによる情報処理は今や不可欠であり、積極的に履修するよう勧めています。

《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

人文学科および日本文学専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目（◎必修科目 ○選択必修科目）
1 年 次	人文学の基本的な考え方と方法について学び、人文知の成り立ちを理解する。	◎人文学入門
	人文学の3分野に共通な基礎的な知識とスタディ・スキルを習得し、学問に誠実に向かい合う心構えを身につける。	◎人文学基礎演習
	日本語学、日本文学、漢文学の基礎的な知識と方法を身につける。	◎日本語学入門 ◎日本古典文学入門 ◎日本近代文学入門 ◎漢文学入門
	【1・2・3年次共通】 日本語学、日本文学、日本文化の全体像を把握する。	○日本語学概論Ⅰ・Ⅱ ○日本語史概論Ⅰ・Ⅱ ○日本文学概論(古典)AⅠ・AⅡ, BⅠ・BⅡ ○日本文学概論(近現代)Ⅰ・Ⅱ ○日本の文化(芸能)Ⅰ・Ⅱ ○日本の文化(古典文化)Ⅰ・Ⅱ ○漢文学概論Ⅰ・Ⅱ
2 年 次	【2・3・4年次共通】 日本語学、日本文学、漢文学のさまざまな研究領域の理解を深める。	○特殊講義の各科目
	【2・3年次共通】 日本語学、日本文学、漢文学の研究方法を身につける。	○基盤演習の各科目 (「古典文学基礎演習」は1年次より履修可)
3 年 次	日本文学が同じ人文学として接する哲学・史学とどうつながり、どのように異なる学問であるかを、具体的なテキストの読み方を通じて考える。	◎人文学総合講義
	自分の専門のテーマに関連した分野に対する深い理解と卒業論文作成に必要な能力を養う。	◎日本文学演習Ⅰ・Ⅱ
4 年 次	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。	◎人文学特殊演習(日本文学)Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文

歴史文化専攻

《教育目標》

歴史文化専攻は、歴史の探求を通じて、人間社会の問題性を把握しつつ、人間と社会の多様で豊かな可能性を理解し、文化の創造と社会の発展に貢献できる人物の育成を目的とする。

《カリキュラムの特色》

歴史学の対象は古今東西にわたる広い領域に及んでいます。そこで歴史文化専攻では、2年次までではできるだけ広い領域にわたる基礎知識の修得をめざし、3年次から関心のある領域の専門知識を深めるような教育課程が用意されています。また、演習については基盤演習から発展演習、特殊演習へ、講義については基盤講義から特殊講義へと段階的に履修することによって、歴史学全般の基礎知識から専門知識に至るまで習得することが可能となっています。

①少人数の演習を通して、「自ら調べ、自ら考え、自ら表現する力」を養成する。

大学では、自らの問題意識にもとづく主体的な学習が基本となります。そのため授業では、参加者の疑問や主張を明らかにし、互いに理解を深めあうことができるように、少人数での討論や発表を大切にしています。

②史料や原典にもとづいて事実を確かめ、構成力を育む。

歴史の真実、史実とは何か。これを解明することは大変むずかしいことです。そのため、専門の研究書を読み、当時の文書や考古学的史料などを丹念に調べることが求められます。こうした学問的訓練を積んで、限られた史料のなかから歴史像を描いていく構成力を育てていきます。

③国際交流に必要な、日本や諸外国の歴史と文化を理解する。

異文化交流、国際交流のためには、その国や地域の歴史や文化を理解すると同時に、自らの歴史や文化をよく知ることが大切です。歴史文化専攻では、日本古代史・日本中世史・日本近世史・日本近現代史・アジア史・西洋古代史・西洋中世史・西洋近世史・西洋近現代史に分かれ、教員とともに、それぞれ関心のある領域の歴史や文化について互いに学びあうことができます。

④大学での学習のまとめとして卒業論文を重視する。

卒業論文を書くには、まず自分で主題を考え、それに関する研究や史料を探して読みこなします。その上で、自分で論文を構成し、文章を書くこととなります。大学での学修成果の集大成として、歴史文化専攻では、卒業論文そのものだけでなく、その作成過程も大切にしています。

《履修法の助言》

■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。

1年次では、前期に「人文学基礎演習」を履修して、人文学の主要な学問分野である哲学、日本文学、歴史学のそれぞれに共通する基礎的な知識やスタディ・スキルを習得するとともに、学問に誠実に向かい合う心構えを、演習形式によって確実に身につけます。後期には「人文学入門」を履修して、それぞれ独自の基本的な考え方と方法について、最新の知見とともに広く学び、人文知の成り立ちを理解します。授業は、哲学、日本文学、歴史学を専門とする3人の教員によるオムニバス方式で行われます。また、1年次から2年次にかけて履修する「概論」では、日本史・アジア史・西洋史すべてについて、基礎知識を体系的に修得します。「概論」は歴史文化専攻での学びの出発点となる科目なので、1年次のうちにすべて履修することを勧めますが、各自で立てた学習計画にそ

って、あくまでも無理のない範囲で履修してください。

2年次では、「日本史の理論と方法」「アジア史の理論と方法」「西洋史の理論と方法」で、日本史・アジア史・西洋史研究がそれぞれどのように発展してきたかを体系的・俯瞰的に学びます。「理論と方法」は1科目2単位が必修ですが、歴史学の研究法を学ぶ重要な科目なので、2科目を履修してみてもよいでしょう。2年次から、自分の問題関心にそって、《特殊講義》を履修することができます。日本や諸外国の歴史と文化への理解を深めるために、さまざまな観点や手法から歴史にアプローチする《特殊講義》には、特定の地域を通史的にみる各国史・時代史、特定のテーマを論じる「美術史」「考古学」「世界遺産学」「グローバル・ヒストリー」「カルチュラル・ヒストリー」など多彩な科目が配置されています。「文献・資料演習」では、基礎的な文献や資料の読解、報告、討論を通して、歴史の知識を充実させ、歴史学に対する視野を拓けていきます。「文献・資料演習」は8単位必修なので、2年次と3年次でそれぞれ履修します。これらの講義と演習を通して、先行研究を踏まえた適切な研究テーマを主体的に選択できる力を身につけながら、自らが進む領域を判断していきます。

3年次では、専門領域に分かれて本格的な専門知識の修得をめざします。「歴史文化演習」で専門的な研究書や史料を精読し、専門領域の知識と問題関心を深化させ、自分の研究テーマを絞り込んでいきます。あわせて、文献・史料の収集方法やレファレンスブックの使い方などのスキルを身につけ、卒業論文作成のための基礎的な準備を進めていきます。なお、「歴史文化演習」のクラス分けの際には皆さんの志望をできるだけ尊重しますが、その一方で、少人数教育の徹底を図る必要があるため、志望者数の多いクラスについてはGPAによる選抜を実施します。志望する領域で研究するためには1年次からの勉学の積み重ねが大事だということを常に意識しておいてください。3年次では、《特殊講義》と「歴史文化演習」を履修して自分の専門分野に関連した知識をより深めていくのと並行して、哲学、日本文学、歴史学を専門とする3人の教員によるオムニバス方式で行われる「人文学総合講義」を履修して、歴史学が同じ人文学として接する哲学・日本文学とどうつながり、どのように異なる学問であるかを、共通テーマをそれぞれの分野から考えることを通じて検討します。これにより、歴史学の可能性と人文学の意義を再確認します。

4年次では、これまで学んだ専門知識にさらに磨きをかけて、卒業論文の完成をめざします。「人文学特殊演習（歴史文化）Ⅰ」では、研究文献や史料の内容を整理して重要な論点を抽出する訓練を行い、各自の研究テーマを中心に研究発表を行います。文献読解や研究発表のための準備作業、授業時における討論を通じて、史資料の探し方と使い方、それらを研究史上に位置づける方法を学びます。「人文学特殊演習（歴史文化）Ⅱ」では、卒業論文作成のための専門的・具体的指導をうけて、論文の完成をめざします。中間報告会を行い、問題設定、篇別構成、分析手法、行論等に関する問題点を批判的に検討しあい、この中間報告会でのレビューを踏まえたうえで、さらに発表および討論を重ねることによって、卒業論文の内容の深化を図ります。卒業論文は4年間の学びの総仕上げであり、その準備と執筆の労苦を通して、歴史学への主体的な参加の道が開けるのだと私たちは考えています。

■全学共通カリキュラムとの関連について

キリスト教学科目：西洋の精神風土をより深く理解するために履修を勧めています。

第一外国語科目：日本近現代史、アジア史、西洋史関連の史料・文献読解のために積極的な履修を勧めています。

第二外国語科目：将来の専門領域を十分に考慮して外国語を選んでください。

ギリシア語・ラテン語科目：西洋の古代史や中世史をより深く理解するために履修を勧めています。

《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

人文学科および歴史文化専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目(◎必修科目 ○選択必修科目)
1 年 次	人文学の基本的な考え方と方法について学び、人文知の成り立ちを理解する。	◎人文学入門
	人文学の基礎的な知識とスタディ・スキルを実践的に習得し、学問に誠実に向かい合う心構えを身につける。	◎人文学基礎演習
	【1・2年次共通】 日本史・アジア史・西洋史のすべてについて、基礎知識を学ぶ。	◎日本史概論Ⅰ・Ⅱ ◎アジア史概論Ⅰ・Ⅱ ◎西洋史概論Ⅰ・Ⅱ
2 年 次	日本史・アジア史・西洋史がそれぞれどのように発展してきたかを体系的・俯瞰的に学ぶ。	○日本史の理論と方法 ○アジア史の理論と方法 ○西洋史の理論と方法
	【2・3年次共通】 基礎的な文献や資料の読解、報告、討論を通して、歴史の知識を充実させ、歴史学に対する視野を広げる。	○文献・資料演習の各科目
	【2・3・4年次共通】 さまざまな観点や手法から歴史にアプローチして、日本や世界の歴史と文化への理解を深める。	○特殊講義の各科目
3 年 次	歴史学が同じ人文学として接する哲学・日本文学とどうつながり、どのように異なる学問であるかを、具体的なテキストの読み方を通じて考える。	◎人文学総合講義
	専門領域に分かれて、自分の専門テーマに関連した問題関心・知識をより深め、卒業論文作成に必要な能力を養う。	◎歴史文化演習Ⅰ・Ⅱ
4 年 次	自ら研究テーマを設定し、資料を収集・分析して仮説をたて、論理的・批判的考察を積み重ねることによって実証し、得られた結論を説得的に表現する、という一連の学問的営みを通じて、これまでの学習成果の集大成として論文を作成する。	◎人文学特殊演習(歴史文化)Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文